



白井さん(右)と収穫適期の色味を確認する内田さん

INTERVIEW

伊豆の国地区

ミニトマト農家

生産者

内田 誠一 さん(56)

働き手

白井 晴代 さん(69)



収穫作業をする白井さん

ベテランの技術に助けられ

伊豆の国市の内田誠一さんのミニトマトハウスで働くのは、白井晴代さん。長年トマト栽培関連で働き、内田さんのハウスでは3年勤務するベテランです。以前、他の農家で働いていた経験もあり「仕事が早くて丁寧。本当に助かっている」と内田さんは感謝の気持ちを語ります。

内田さんは新規就農者としてミニトマト栽培を始めて7年。伊豆の国地区の新規就農者のほとんどが雇用経営で、日々の収穫やパック詰め作業などに多くの労働力が必要です。その中でパ



傷や着色などを確認しながらパック詰め作業を行う

働ける喜び

白井さんは「収穫時期が終わった夏の片づけ作業などは大変だが、この年齢で働けるのはとてもありがたい。出荷にちょうど良い色合いのトマトを収穫できた時など、うれしいこともたくさんある」とやりがいを感じています。

ト従業員は、農業経営を支える頼もしい存在です。白井さんはミニトマト栽培に携わってきた経験が長く、内田さんは「慣れた手つきでできばきと作業し、安心して作業を任せられる」と信頼を寄せます。



営農販売部 営農課 佐野 練士

地域農業を支える力に

あぐりキューピッドは、無料職業紹介を通して、農業の人手不足解消と生産規模の拡大、地域雇用の創出を目的に、地域農業の振興を図る事業です。

これまでに、イチゴ、柑橘、ミニトマト、レタス、ジャガイモ、ブロッコリー、シタケ、ネギ、シキミなどの生産者から求人があり、それぞれ雇用契約が成立。令和6年度(1月現在)は、働き手からの応募243件に対し、105件が成約に至りました。あぐりキューピッドを通じて生産者と地域の働き手の皆さまをつなぎ、同事業をより浸透させ多くの成約につなげていきたいと思えます。

JAふじ伊豆は、自然と地域を大切にしながら、未来へつなぐ農業(持続可能な農業)に向けてさまざまな支援を行っています。その一つに、無料職業紹介所(愛称:あぐりキューピッド)があります。働き手を探している生産者と農家で働きたい地域の皆さまをJAが無料で仲介する事業です。今回の特集では、同事業を利用した生産者と働き手の皆さまをご紹介します。



◆お申し込みなど詳細は本誌21ページをご覧ください。



INTERVIEW

三島函南地区

ミニトマト農家

生産者

長澤 恵介 さん(37)

働き手

広瀬 美津子 さん(69)

義彦 さん(69)

長澤恵介さん(左から3人目)・母 弓月さん(右から2人目)の農園にパート勤務する
広瀬美津子さん(左)・義彦さん(左から2人目)ご夫妻と佐藤みゆきさん(右)



収穫適期を広瀬さん(左)に教える長澤さん

**新規就農1年目
みんなで農園を仕上げたい**

令和6年8月に、三島市で新規就農した長澤恵介さん。農業用ハウスの内部設備メーカーに勤務していた時に生き生きと夢を語る多くの農家に出会い、新規就農を決意しました。

「共に働くみんなで一緒にこのミニトマト農園を作り上げていきたい」との思いから、「あぐりキューピッド」を通じて雇用したパート従業員は全て農業未経験者。「収穫基準など、自分が教えた通りに一生懸命仕事をこなしてくれる」と感謝の気持ちを伝えます。

体を動かし健康作りにも

長澤さんの元で働く広瀬美津子さん・義彦さんご夫妻。美津子さんは金融機関など、義彦さんは百貨店勤務経験者で、農業経験はありませんでした。収穫作業にいそむ美津子さんは「家庭菜園など、もともと農業に興味があった。農業は奥が深いところが面白い。教わった基準をもとに、消費者目線で食べたいと思うようなものを収穫している」と笑顔を見せます。

和気あいあいとアットホームな長澤さんのミニトマト園。「今後は管理全般など私の右腕となってくれるような人を求めている」と期待を込めました。



定年退職後にパート勤務で
今までと違った分野への挑戦にも

INTERVIEW

なんすん地区

柑橘農家

生産者

池田 政則 さん(65)

働き手

谷口 哲也 さん(35)



池田さん(左)と西浦みかん寿太郎の選別をする谷口さん



今でも交流がある谷口さんと池田さん

若者は農業に関心が高い

沼津市内浦で寿太郎など柑橘を栽培する池田政則さんは「わが家では、JAに無料職業紹介の仲介を頼むと若者の応募が比較的多い。しかも仕事も一生懸命で、若者の農業に対する関心は高いと感じる」と話します。

昨年まで池田さんの柑橘園で働いていたのが谷口哲也さんです。収穫から夏場の草刈り、摘果、せん定などさまざまな仕事をこなしてきました。現在はパート雇用ではありませんが、時々手伝いに来たり、今でも池田さんと交流があります。

農業は大変だけど魅力的

谷口さんは、地元沼津市の農業に関心があり、草刈りの経験もあったことから「あぐりキューピッド」に応募しました。「農業は全てを自分で考えて行う。自然災害もあるが、頑張った分が結果でついてくる点に魅力を感じる」と話します。

農業で働いた経験から「今後には生かせる忍耐力や精神力を身に付けることができた。機会があればまた農業で働いてみたい」と話し、池田さんは「また収穫作業に来てもらいたい」と笑顔を見せました。



せん定を教える池田さんと丁寧に作業をする谷口さん